

## はじめに

東京大学大学院教育学研究科・学校教育高度化センターでは、学校教育高度化推進に関する研究プロジェクトを実施しています。2012, 2013 年度の 2 年間は、「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション」をテーマとした公募型研究プロジェクトを実施し、今年はその2年目になります。本プロジェクトは、2011 年度から 2013 年度にかけて当センターが中心になって行ってきた、科学研究費補助金基盤研究 A「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研）と連動して行われているものです。

このイノベーション科研は、新たなカリキュラムの形成を「カリキュラム・イノベーション」として概念化しようとするものです。特に、アカデミズムにおける学問体系を高校・中学・小学校へとおろしていくように構成されていた従来の教科カリキュラムの構造を転換し、職業や政治経済を中心とする市民社会生活との関連（社会的レリバンズ）を有するカリキュラムを構想しようとする点に、その特徴があります。

今回の公募型研究プロジェクトは、院生がカリキュラム・イノベーションへ向けての研究フロンティアを開拓する担い手となることを期待して、研究科内で公募したものです。6 件のプロジェクトが採択され、2013 年6月から 2014 年2月までの9ヶ月間、研究に取り組みました。この報告書はその成果をまとめたものです。本プロジェクトでは、中間報告会をたびたび開催しており、そこでの熱心な議論も経て作成されております（なお、プロジェクトには、教育的意義に鑑み、日本学術振興会特別研究員 DC も参加しております。ただし、研究費の受給と成果発表義務を定めた日本学術振興会の規定に則り、本プロジェクトの研究費受け取りを辞退し、あわせて、特別研究員であることを明記しています）。

取り組まれたテーマは多様ですが、どの研究も教育そのものの組み替え、カリキュラムのイノベーション（革新）に迫るという点で共通の志向性を有しており、教育学の進展を促す意欲的な研究と判断しております。これらの研究報告について忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

2014(平成 26)年 3 月  
学校教育高度化センター長 小玉重夫